

令和 4 年度北九州市障害者自立支援協議会 報告会
「障害者自立支援協議会のこれまでとこれから」
権利擁護部会

部会長 深谷 裕

これまで……

権利擁護部会では、障害児者に対する意思決定支援において必要な取り組みを明らかにするため、過去 3 年間にわたり以下のような実態調査を実施してきた。

【令和 2 年度：支援者調査】

アンケート調査（331 名）により、意思決定支援のガイドラインに沿った取り組みができているか、支援者の自己評価を確認した。

【令和 3 年度：家族調査】

アンケート調査（71 名）、グループインタビュー（5 団体：45 名）により、ご家族や支援者による意思決定支援の取り組みやそれに対する認識を明らかにした。

【令和 4 年度：本人調査】

- 目的：北九州地域で暮らす障害のある人々が、意思決定にかかる福祉サービス提供者（支援者）や家族の関わりについて、どのように認識しているかを明らかにすること。
- 期間：2023 年 2 月～2023 年 3 月（継続中）
- 対象：北九州市内の基幹相談支援センター、委託相談支援事業所、障害当事者団体等からの協力を得て行う。研究の趣旨を説明し、同意が得られた成人会員のみを対象とし、発話が困難な重症心身障害者を除く。
- 方法：グループインタビューまたは個別のインタビューを、多様な障害者とのコミュニケーションに慣れた実務者が中心になり実施する。なお、調査実施に当たっては、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針」を遵守する。
- 質問内容（例）
 - ✓ 支援者との関りにおいて、自分の意思や気持ちが尊重されていると感じているか
 - ✓ どのような場合に自分の意思や気持ちを伝えることが難しいと感じるか

《中間報告：3 月 14 日時点》

- ◆ 実施対象者：個別（5 名）、グループ（2 グループ：21 名）計 26 名
- ◆ 得られた結果（主なもの）：
 - これまでの振り返りから言えること
 - ・ 自分の意思や気持ちは概ね尊重されていると感じている。
 - ・ 意思決定への関与者の属性としては、両親や兄弟姉妹など家族が一番多く、相談ができている場合、本人も家族関係が良好であると感じている。
 - ・ 関係良好な家族の関わり方とは、本人の意向を汲み取り、受容的な関わりであると本人が感じていることが多い。
 - ・ この点で、とくに父親からは説明なく決めつけられることが多かったという振り返りもある。
 - ・ 相談相手は自分で使い分け（？）をしている。
 - ・ 障害者も変えて欲しいところがあったら、変えて欲しい理由を説明した方がいい（障害者側の努力や工夫が必要）

- ・ ネットの情報が使えるようになって、障害者の生活は便利になったが、ネットへのアクセス環境の整備や、情報の使い方のサポートが必要。
- ・ 支援者や家族、ネットからの情報もさることながら、障害当事者どうしのリアルな体験に基づく情報交換も大事。

■ 支援者や家族に求めること

- ・ 優しい語り口で尋ねてもらいたい。
- ・ 支援者の性別への配慮や、場所への配慮（個室）。
- ・ 質問のタイミングがわからないので、質問タイムがあるといい。
- ・ 何がわからないかわからないので、情報提供と丁寧な説明をして欲しい。
- ・ 情報が多いと混乱することがあるので、情報整理を支援し一緒に考えてもらえると助かる。
- ・ その場で選択を迫られると困ることがあるので、時間が欲しい。
- ・ 窓口等で、ダメな時、「ダメです」「できません」だけでなく、理由を説明されると納得することもある。
- ・ チャレンジしてみたい気持ちを応援し、実行できる手助けをして欲しい。
- ・ 初めてのことは、体験の機会があるとよい。場合によっては同行してもらえると助かる。
- ・ 「これが常識」という前提で話したり、過度に一般化し決めつけないで欲しい。
- ・ 支援者—当事者が、対等な関係であること。上から目線で優しくされてもちょっと違う。

(考察メモ・気づき)

- ・ 障害種別・程度、個性により、意思決定支援の具体的方法や注意ポイントは異なる。
- ・ 手続き的には、令和2年度支援者調査のために、ガイドラインをベースに作成した調査項目が、実施すべき事項や配慮すべき点をほぼ踏まえている。
- ・ 意思形成、意思表示、意思実現の実体験と慣れが必要→意思表示者としての自覚と自信に。
- ・ 幼少期から支援者がかかわり、家族を孤立させないことが重要。(開かれた家族を)
- ・ 障害者本人と一緒に考えてくれる人は欲している、「転ばぬ先の杖」を必ずしも欲していない。
- ・ 自立と責任は表裏一体なので、「障害者の自立」を考える際は、「責任を引き受けること」についても考えていく必要がある。(×失敗経験をすべて他人のせいにする)
- ・ 当事者活動においても、意思決定支援は大切(自己を過度に投影させない)
- ・ ライフコースに応じた生活全般にかかわる意思決定への配慮が必要(就学、就職、お金、恋愛、結婚、住まい、など) ≠ 人生の既定路線へと誘導すること
 - ※ 現時点で受けている支援の領域により、他領域における必要な意思決定が見過ごされる可能性がある。
- ・ 定期的かつ継続的に過去の意思決定を振り返る必要性(→今だから言えること、支援者の関わり方の検証、本人の価値観や考え方の変化を理解する一助、次の意思決定の資料)

これから……(意思決定を支える環境の整備)

- 意思決定支援力?の向上(研修ツール作成、他の部会と連携)
- 意思実現のための環境整備(差別解消支援地域協議会や他の部会と連携)
- 実例(支援事例)から浮上する共通課題への取り組み(他の部会と連携)